

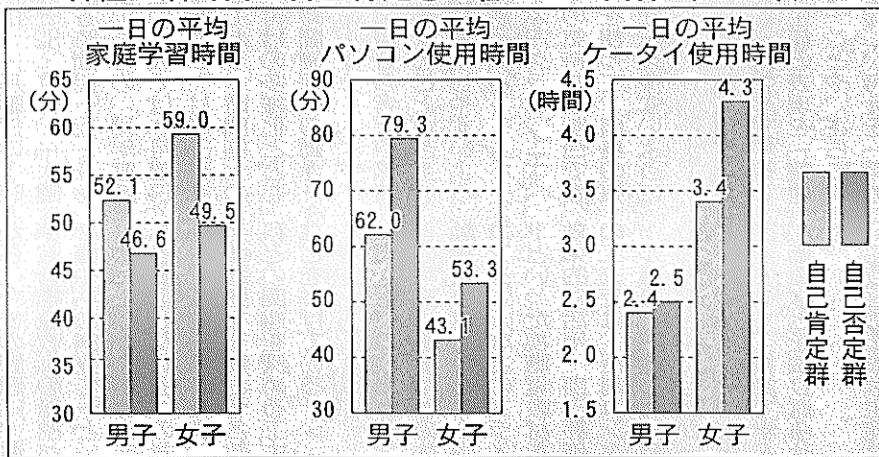
自己肯定感の低い生徒 PCや携帯に没頭 学習時間は少なく

が明らかになった。調査らる部活動や趣味に対する企画・分析に当たった意欲でも同様の傾向が本原雅子・京都大学大学院准教授は、友達や保護者との関係が生徒の自己肯定感に大きな影響を与えているとして、子どもを取り巻く人的環境の変化に理解を求めた。

調査結果によると、自己肯定群に分類される「あまり/全く信用していない」と回答した生徒数は男子3.9倍、女子3.4倍、「先輩はいない」と答え、た生徒数は男子4.3倍、女子6.9倍と多かった。保護者との関係でも、自己肯定群は自分の意見を「保護者は自分の意見をまったく聞いてくれない」と回答した生徒数は「よく聞いてくれる」との回答数に対し、男子18.8倍、女子51.3倍で大きな差があった。

これらの結果について木原准教授は「先生以上に友人、保護者といった身近な人間関係に左右される生徒の自己肯定感の差が、彼らのコミュニケーション能力や自発的意欲にも影響している」と分析。しかし「自己肯定感が低いからといって、その子が常に暗い顔をしているわけではない。保護者や教員はなかなか気付けないことも指摘し、まずは周囲の大人が日頃からよく見て、聞いて、子どもが安心できる穏やかな信頼関係を構築することが重要だと訴えた。

各種生活時間と自己肯定感の低さとの関係 (2011年)



同調査は、昨年8～9月に全国の高校2年生を対象に実施し、6361人から回答を得た。